らにもいはずきこえさせんかたなし。略中この御なやみは寛仁三年三月十七日よりなやませ給て、廿七日に出家せさせ給へれば、日ながくおぼさるゝまゝに、さるべき僧たち殿ばらなどゝ御物がたりせさせ給て、御こゝちこよなうおはします、いまはたゞいつしかこの東に御堂たてゝ、すゞしくすむわざせん、となむつくるべき、かくなんたつべきなどいふ御心だくみいみじ、かくて日ごろになるまゝに御心ちさはやぎて、すこし心のどかにならせ給。略中かくて世をそむかせ給へれど、御いそぎはうら吹風にや、いまは御心ちれいざまになりはてさせ給ぬれば、みだうの事覺しいそがせ給、攝政どのくに〳〵までさるべきおほやけごとをばある物にて、この御堂のことをさきとつかうまつるべきおほせ事の給、殿の御まへも、このたびいきたるはことごとならず、この願のかなふべきなめりとの給はせて、ことゞなく御堂におはします、ほう四町をこめて、おほがきにしてかはらふきたり、さまゞにおぼしおきていそがせ給ふに、夜のあくるも心もとなく、日のくゝるも口をしうおぼされて、夜もすがらはやまをたゝむべきやう、池をほるべきさま、木をうゑなめさせ、さるべき御だうゝかたゞさまゞつくりつゞけ、御佛はなべてのさまにやはおはします、丈六の金色の佛をかずも云らずつくりなめて、そなたをば北南とめだうをあけて道をとゝのへつくらせ給、とりのなくも久しくおぼされ、よひ曉のおこなひもおこたらず、やすきいも御とのごもらず、たゞこの御堂の事をのみふかく御心に云ませ給へり、日々におほくの人々まゐりまかでたちこむ、さるべき殿ばらをはじめたてまつりて、みやみやの御ふ御莊どもより、一日に五六百人の夫を奉るに、かずおほかるをばかしこきことにおぼしたち、國々のかみども、地子官物はおそなはれども、たゞいまは此御堂の夫やく材木檜皮瓦とおほくまゐらすることを、我も〳〵ときほひつかうまつる、おほかたちかきもとはきもまゐりこみて、云なゞかたゞあたり〳〵につかうまつる、ある所をみれば御佛つかうまつると